

4・10最賃ビッグアクション

宣伝、デモ、ミニ集会、要請

全労連が提起した「4・10 最賃ビッグアクション」について、県内でも行動がとりくまれました。

晴天のなか、11 時から桜木町駅まで宣伝行動を実施。「全国一律最賃制度の確立」の横断幕や、「最低賃金あげろ」の大きなパネルを掲げてアピールするとともに、マイクで訴えながら、チラシ・ティッシュを配布しました。

訴えでは、住谷・県春闘共闘代表委員（神奈川労連議長）や、ユーコープ労組、医労連、福祉保育労の仲間が、春闘での職場状況なども踏まえて、

人手不足の改善のためにも最低賃金の大幅引きが必要であることなどを強調しました。用意した 400 セットのチラシ・ティッシュは早々に配布しきり、「がんばって」「その通り」など声もかけられました。

宣伝後の桜木町から国合庁までの昼休みデモには、35 人が参加。最低賃金の大幅引き上げとともに、すべての労働者の賃上げや年金額・生活保護水準の引き上げなどもアピールしました。

国合庁前ではミニ集会を開催。主催者あいさつした安部・神奈川労連副議長（ユーコープ労組）は、労組員 1 千人以上がワッペンをつけながら仕事し、ビッグアクションに参加していることを報告し、とりくみを強化することを呼びかけました。

医労連、福祉保育労、建設労連、県国公の仲間が発言し、「建設労働者も賃上げめざし 100 万人署名の目標を達成」、「公務員の高卒初任給は最賃を下回っている」など、それぞれの賃金闘争と最賃を結びつけてとりくむことが話されました。

午後には、代表者が神奈川労働局賃金室に要請を行い、「秋の改定を待つことなく、最低賃金引き上げを行うこと」などを求めました。賃金引き上げの好循環をつくっていくことや、非正規雇用労働者の賃上げの必要性などを意見交換しました。



各地域でも行動

ビッグアクションとして、地域においても宣伝行動がとりくまれました。NANBU・ザ・フォー・ユニオンは、横浜南部労連の仲間の協力も得て、7人が参加して新杉田駅で宣伝し、帰宅する労働者や学生などに最賃引き上げとともに、労働組合への加入も呼びかけました。

また、鶴見区労連は鶴見駅で7人が参加し約200セットを配布。横浜北部地区労は綱島駅で宣伝を実施し、6人で300セットを配布しました。横浜西部労連は18日に星川駅で宣伝を行いました。

建設アスベスト訴訟支援する会総会

『建設アスベスト訴訟を支援する会』の第11回総会が4月8日に開催されました。

「訴訟の到達点と今後の課題」と題して弁護団長の西村弁護士がミニ講演。裁判の状況と成果などを改めて確認しながら、解体改修や屋外作業についてメーカーや国の責任が認められていない課題をどのように克服していくかを説明し、継続している裁判への支援を訴えました。また、和解を拒否するメーカーの不当な態度を厳しく批判するとともに、裁判所からの和解案なども活用して解決を迫るとりくみが強調されました。

討論では、民医連の仲間からアスベストへの関心を高めるためのとりくみや、建設現場の仲間からは、家の立替などの際にアスベスト含有の調査や除去が所有者の負担となっていることが、なかなか理解されない状況が話され、「本来は、国や行政が負担すべき」と訴えました。

最後に、参加した原告全員が発言。「メーカーが謝りもしないのは本当に悔しい」、「メーカーとの交渉で『我々の代で裁判を終わらせなければいけない』と訴え、相手にも響いていた」、「夫は屋外の屋根工のため、対象になっていないが、アスベストが原因で亡くなったのは間違いない」、「夫はアスベストに殺された。家族として訴え続ける」などが語られ、ともに闘っていく決意が固められました。